



# さんりんしゃ 三輪車



ニッキー

八千代市立新木戸小学校

《校長室だより》

発行：校長 寺田 好江

令和2年度 第19号

令和2年12月22日

【学校教育目標】 自らの可能性を拓く子供の育成

## 「片足がなくてできない、そんな事はない！」

昨年から、5年生がアンプティサッカーを体験していることから、ACミラン千葉(佐倉)所属の日本代表古城暁博(こじょうあきひろ)選手が来校し、全校でアンプティサッカーを見学しました。

古城さんは沖縄出身で5歳の時に交通事故で片足を切断しました。その時から義足での生活が始まり、小学生の時は毎日半ズボン、お母さんが長ズボンをはかせてくれなかったそうです。義足を隠すのではなく、見せるためだったと後から知ったのですが、そのお陰で、恥ずかしさは全くないと話していました。

全校が見守る中、パスやシュートを見せていただきました。片足でクラッチ(杖)を上手に使ってプレーをする姿は、とても迫力がありました。特にジャンピングボレーシュートに歓声があがりました。

最後に各クラスの代表と「リフティング対決」を行いました。最後まで残ったのは・・・6年生！ 古城さんは片足なので・・・



### 【2年生の感想】

- \*足がないのにサッカーができるなんて、すごくカッコイイと思った。今まで感じたことがない、言葉で言えないほどの「すごい！」に出会いました。わたしは思わず泣きそうでした。
- \*片足がないのに「目標にむかって努力していく。」ってすごいと思いました。ほくもそんな人になりたいです。
- \*体をなくしてしまった人に会うのは初めてでした。でもすごいプレーを見せてくれたのがすごかったです。
- \*障害があっても前向きに自信をもって生きているのがステキだった。もし、自分も障害者になったら前向きに生きたい。

### 【5年生の感想】

- \*「片足だからできない」ではなく、「どうすればできるか」を考えれば、何でもできるという話が心に残った。
- \*事故にあった事がデメリットになるのではなく、努力でメリットになることもあると思った。
- \*シュートやパスは、普通の選手みたいに強くて迫力があつた。ボールを蹴る音がすごかった。
- \*見てると簡単そうだけど、私たちは体験しているので、実際にやってみると歩くのも難しかったからすごいと思った。
- \*片足になってもくじけないで、笑顔でプレーしていた。「片足になったとしてもがんばれるんだ！」と勇気もらった。
- \*クラッチ(杖)を体の一部のように使っていて、ジャンピングボレーシュートができるなんて「すごい！」と思った。
- \*日本には9チームしかない。外国ではたくさんチームがある。もっとアンプティサッカーを広めたいと思った。
- \*どんな障害があっても何でもできる事がわかった。そのおかげで成長ろうと思ったり、チャレンジしようと思えた。
- \*アンプティサッカーは障害者と健常者が一緒にプレーできるスポーツだから、日本中に広めたいんだと思った。私も日本中に広めて、みんなでやりたいと思った。楽しかった。